

◎雨水排水施設の経費

維持管理費	【 河川課・浄化センター 】
--------------	----------------

【総合計画上の位置づけ】

安全で快適な生活が送れるまち
下水道・河川:公共下水道の整備や良好な水辺環境の実現が図られているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 大雨や台風による洪水や溢水から市民を守るため。

効果 低地排水ポンプ場及び河川・水路護岸等の雨水排水施設の良好な状態を保持する。

【事業の内容】

(1) 維持管理費

- ・低地排水ポンプ場について、良好な状態を保持するため、定期点検等を専門業者に委託するとともに、水路等の雨水排水施設のしゅんせつ・清掃等の業務を委託した。
- ・台風や大雨等による溢水や洪水等の被害を未然に防ぐため、水路や排水溝等の雨水排水施設についてしゅんせつ・清掃等の業務を委託するとともに施設の修繕を行った。
- ・雨水幹線の劣化診断調査結果を基に施設の改修・修繕を行った。

【中事業に含まれる実施計画事業】

雨水幹線の劣化診断及び改修(5-6-6-①)

雨水排水施設の修繕(5-6-6-②)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
93,849	88,449	78,273		10,176
主な支出内訳				
・維持管理費				
事務補助嘱託員報酬 1人				1,008
事務補助嘱託員費用弁償				128
雨水排水施設光熱水費				1,123
雨水排水施設維持修繕料				36,845
雨水幹線等しゅんせつ委託料				7,854
管理施設除草・枝払い等委託料				2,767
低地排水ポンプ場ポンプ機器点検等委託料				367
公共下水道(雨水)維持修繕工事請負費				27,915

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 都整-33 維持管理費 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	538 維持管理費					
		1263 維持管理費					
主管課	河川課	関連課	下水道課、総合防災課				
分野名	下水道・河川						
目標 (目標値)	雨水排水施設の維持保全により、溢水から市民の人命や財産を守る。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	78,273千円	86,948千円	83,522千円			
	(国・県)		2,993千円				
	(負担金等)						
	(一般財源)	78,273千円	83,955千円	83,522千円			
	人員配置数	3.4人	3.6人	3.8人			
	人 件 費	30,715千円	33,106千円	34,838千円			
協働の パートナー	神奈川県・横浜市	神奈川県・横浜市	神奈川県・横浜市				
事務事業 運営経費	総事業費	108,988千円	120,054円	118,360円			
	市民1人当 りの経費	618円	683円	676円			
	対象者1人 当りの経費						
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※		
						※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
雨水幹線の補修延長	○	目標値	200m	200m			
		実績値	177m	183m			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
休日における対応件数	△	目標値					
		実績値	10件	3件			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 公共下水道(雨水)事業認可区域内の雨水施設(雨水幹線・水路・低地排水ポンプ場等)の良好な維持管理を行うため、これら施設の点検・更新・修繕工事を進めるとともに、突発的・緊急的な対応や自然環境に配慮した施工方法など、実施にあたっては、よりきめ細かい配慮が求められてきている。 このような状況の中で、雨水施設の良好な維持管理を行うには、現状の予算や人員では厳しい状況にある。また、老朽化した雨水施設の修繕工事においても同様である。 今後は雨水施設の状況調査や劣化状況・破損状況の把握など、十分な事前調査を行うとともに計画的な施設修繕が必要である。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 公共下水道(雨水)事業認可区域内の低地排水ポンプ場の良好な維持管理や水路護岸等の崩壊等を未然に防ぐため、低地排水ポンプ場機器類の定期点検や目視等による日常のパトロールを実施し、良好な状態での施設管理に努めるとともに、水路護岸等については作業センターの協力を得ながら、良好な施設の維持管理に努めているところである。 また、水路補修等の施工にあたっては、自然を育み、親しまれる川づくりを考慮しながら施工している。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 雨水施設の修繕工事は突発的・緊急的なものが大半であるが、予算面から早急な対応が困難な場合が多々ある。 また、老朽化した雨水施設の修繕工事についても同様である。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 雨水施設の突発的・緊急的対応を要する維持修繕等については、優先的を考慮するとともに、作業センターとの調整を図りながら対応する。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	近年の都市型水害や大雨等による浸水被害や埋設管の影響による道路陥没の状況から判断し、水路護岸や河床の補修・補強及び水路浚渫等の事業の拡充・拡大を図る。		
担当課長氏名:		河川課長 稲葉 博行	

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	施設修繕を必要とする雨水施設整備について、計画的に推進する。		
担当部名	都市整備部	部長名	高橋 洋